

大和物語「姨捨（姥捨て山）」テスト対策練習問題①

年	組	番	名前
---	---	---	----

大和物語より「姨捨」の原文を読んで、問いに答えなさい

姨捨（第百五十六段）

信濃の国に更級といふ所に、男住みけり。

若き時に親は死にければ、をばなむ親のごとくに、若くより添ひてあるに、この妻の心憂きこと多くて、この姑の、老いかがまりてゐたるを常に憎みつつ、男にも、このをばの御心のさがなく悪しきことを言ひ聞かせれば、昔のごとくにもあらず、おろかなること多く、このをばのためになりゆきけり。このをば、いといたう老いて、二重にてゐたり。これをなほ、この嫁、所狭がりて、今まで死なぬことと思ひて、よからぬことを言ひつつ、「持ていまして、深き山に捨て給ひてよ。」とのみ責めければ、責められわびて、さしておと思ひなりぬ。

月のいと明かき夜、「姫ども、いざ給へ。寺に尊き業すなる、見せ奉らむ。」と言ひければ、限りなく喜びて負はれにけり。高き山の麓に住みければ、その山にはるばると入りて、高き山の峰の、下り来べくもあらぬに、置きて逃げて来ぬ。「やや。」と言へど、答へもせで、逃げて家に来て思ひをるに、言ひ腹立てける折は、腹立ちてかくしつれど、年ごろ親のごと養ひつつ相添ひにければ、いと悲しくおぼえけり。

この山の上より、月もいと限りなく明かく出でたるを眺めて、夜一夜、寝も寝られず、悲しうおぼえければ、かく詠みたりける。

わが心慰めかねつ更級や姨捨山に照る月を見て

と詠みてなむ、また行きて迎へ持て来にける。それより後なむ、姨捨山といひける。慰め難しとは、これが由になむありける。

問1 「大和物語」のジャンルを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：説話集
- イ：随筆
- ウ：歌物語
- エ：日記



問2 「大和物語」と同ジャンルの作品を次の中から2つ選び○で囲みなさい。

- ア：徒然草
- イ：土佐日記
- ウ：伊勢物語
- エ：平中物語

問3 大和物語が成立したとされる時代を答えなさい。

問4 次の語句の読みを送り仮名も含め現代仮名遣いで答えなさい。

- ア：更級
- ウ：御心
- オ：所狭がる
- キ：業
- ケ：下り来べく
- サ：相添ふ
- ス：夜一夜
- ソ：これが由

- イ：妻
- エ：二重
- カ：嫗
- ク：麓
- コ：答へ
- シ：山の上
- セ：寝も寝られず

【ア】

【イ】

【ウ】

【エ】

【オ】

【カ】

【キ】

【ク】

【ケ】

【コ】

【サ】

【シ】

【ス】

【セ】

【ソ】



問5 「この妻の心憂き」とあるが、ここでの「憂し」の意味として正しいものを次の中から
 選び○で囲みなさい。

- ア：優しい
- イ：憂鬱である
- ウ：薄情である
- エ：優柔不断である

問6 「老いかがまりてゐたる」とあるが、これと同じことを表現している部分を原文から
 抜き出して答えなさい。

問7 「をばの御心のさがなく悪しきこと」とあるが、「さがなし」の意味として正しいものを
 次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：仕方がない
- イ：意地が悪い
- ウ：定まらない
- エ：加減のない

問8 「おろかなること多く」とあるが、「おろかなり」の意味として正しいものを次の中から
 選び○で囲みなさい。

- ア：要領の悪い
- イ：おろそかになる
- ウ：憎らしい
- エ：愚かである

問9 「おろかなること多く、このをばのためになりゆきけり。」とあるが、この内容として
 最も正しいものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：男がをばを疎ましく思うようになり、邪険に扱うようになった
- イ：男が妻と一緒にをばを悪く言うようになった
- ウ：男がをばの悪いところを指摘し、正すようになった
- エ：男が妻の言い分を聞くうち、をばをおろそかに扱うようになった



問10 「二重にてゐたり」とあるが、これは誰の、どのような様子を表しているか、簡単に説明しなさい。

問11 「これをなほ」とあるが、「なほ」の意味として正しいものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：いっそう
- イ：なぜなら
- ウ：理由に
- エ：当然のように

問12 「この嫁、所狭がりて」とあるが、何に対してそのように感じたのか。原文から抜き出して答えなさい。

問13 「責められわびて」とあるが、「わぶ」の意味として正しいものを次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：謝る
- イ：困る
- ウ：怒る
- エ：飽きる

問14 「昔のごとくにもあらず、おろかなること多く、このをばのためになりゆきけり。」とあるが、誰（何）のようすを表したものが、次の中から選び○で囲みなさい。

- ア：をば
- イ：男
- ウ：男の妻
- エ：月



問15 「さしておと思ひなりぬ。」とあるが、「さしてむ」の内容を表す部分を、原文から抜き出して19文字で答えなさい。

問16 「姫ども、いざ給へ。寺に尊き業すなる、見せ奉らむ。」とあるが、男がこのように言った理由として正しいものを次の中から選び○で囲みなさい。

ア：年老いたをばに、尊い仏事を見せたかったから

イ：をばを、妻から離れたところへ連れ出し安心させたかったから

ウ：をばを山に連れて行く口実にするため

エ：今までのをばからの愛情に恩返しをするため

問17 「いざ給へ」を現代語訳しなさい。



大和物語「姨捨（姥捨て山）」テスト対策練習問題①（解答）

問1 ウ

問2 ウ・エ

問3 平安時代

問4 【ア】さらしな
 【ウ】みこころ
 【オ】ところせがる
 【キ】わざ
 【ケ】おりくべく
 【サ】あいそう
 【ス】よひとよ
 【ソ】これがよし

【イ】め
 【エ】ふたえ
 【カ】おうな
 【ク】ふもと
 【コ】いらえ
 【シ】やまのかみ
 【セ】いもねられず

問5 ウ

問6 いといたう老いて、二重にてゐたり

問7 イ

問8 イ

問9 エ

問10 （例）伯母の腰が曲がっている様子



問 | 1 ア

問 | 2 をば

問 | 3 イ

問 | 4 イ

問 | 5 もていまして、深き山に捨てたうびてよ。

問 | 6 ウ

問 | 7 さあ、いらっしゃい

